

# 宇宙からの侵略者



搾り取られ専門サークル: drain

男は全員搾精奴隷っ！



敗者に道はない。  
ただ搾り取られながら、進むのだ。

(サタリン・リナ2世・キタオーデイ)

それは人間には知覚できなかつた。

ある日突然現れて、世界の主要都市を破壊し  
人類の文明を停止させた。

地球人も力を合わせ抵抗はしたが…

いや、実力差を考えればむしろよく戦っただろう。  
しかし、人類の敗北に時間はかからなかつた。

そして

命乞いの交渉役に選ばれた日本人トオルは  
それと初めてコンタクトを取ることに成功した。

それは、地球人滅亡の代償に  
日本人男子を捕虜・奴隸として  
譲渡するよう命じてきたのだ。

その場での決断を迫られたトオルだが、  
彼は驚くことにその命令を受諾し、  
『日本人男子以外の生存者は殺さない。  
拉致しない』

という条件までそれに受容させ、  
日本人男子の一人として…、  
その捕虜・奴隷として…、

地球から略奪された。



捕虜・奴隷として略奪された日本人男子は  
全員、その場で全裸にされ、  
木で出来た船底のような宇宙船に押し込まれた。

また、その場で全員が両手両足を拘束され、  
宙吊りの状態で、  
ペ○スの竿全体をゼリー状の何かで包まれた。

全員が動けなくなっただことを確認してから、  
それは姿を表した。

その姿は、地球最高クラスのモデル。  
史上最高クラスのアイドル。  
そういう容姿の女性のみで構成された…

人間によく似た見姿の……………宇宙人だったのだ。

序

序

「これが、噂の日本人男子い？」

「そうみたいね。確かに全員泣き虫で、マゾっぽいわ。オナホに縄くくってエンジンの振動を伝えるだけなのに、全員フル勃起じゃない(笑)これは相当、搾れそうね♥」

「あは♥  
どうしたのかな？あ、ボクウ？  
お姉さんたちの顔見た途端、さらに勃起が止まらなくなっちゃったねえ？  
もしかして女の人は久しぶりかなあ？  
それともお、元々童貞なのかなあ？  
クスクス」



「これからボクちゃんたちはあ、  
ふう♥  
お姉さんたちの星で一生…、死ぬまで…、  
奴隷として搾り取られ続けるんだよお。  
良かったね、嬉しいね。  
オチ○チンピクピクしいね。  
どうちたのかな？  
もう白い精液、びゅっびゅっするう？  
もうちよつとこのまま生殺しで  
我慢しましょうねえ。  
いい子にしないで、この長〜い鞭で  
お尻をビシビシしちやいまちゅよお？  
クスクス」



「ほくら♡  
宇宙船が加速したら、オチ○チンを包む  
オナホがジンジンしちゃうわよ♡  
困ったわね♡  
敵の星に連れて行かれる前に、  
オチ○チンすっからかんになっちゃうわね？  
地球を護るために犠牲になった誇り高い  
男の中の男が、まさか連行される最中に  
精液出し尽くしたなんて、  
恥ずかしくて生きていけないわよね♡  
でも死にたくても死ねないわよ♡  
どうしようね♡（笑）  
困ったね♡」



「あれ♡？  
あれれれれれ？？？  
もしかしてオナホで感じてるだけじゃなくて、  
鞭を見せられて余計に興奮してない？  
あ♡（笑）  
も・し・か・し・て・♡  
射精させられてすぐにお仕置きの鞭とか、  
そういう期待をしているのかな？  
ほ♡ら♡  
私の目を見なさい。

「…期待……しちゃうの♡」



「私達はいいのよ〜？  
今ここで射精してくれても〜。  
私達の星には男がいないから  
射精なんて、生で見たいこと無いね〜♥  
愛する女の膣の中に出すはずだった  
真っ白い精液、無駄撃ちしてみせて〜（笑）  
精液どくどく垂らしながらの負け犬根性、  
見せて見せて〜（笑）」

「もう出せない〜っ」って泣くまで出したら、  
鞭で叩いて：あ・げ・る♥♥♥  
綺麗なお姉さんの鞭で、射精したこと反省  
しないかね〜？  
縛り上げられて惨めったらしく射精したら、  
自分が許せないわよね〜♥」



「そっか〜（笑）  
捕虜にされたのに射精なんてしたら、  
男のプライド、ズタズタなんだ〜（笑）  
じゃあ、ますます我慢が必要だね〜♥  
でもさ〜  
もう……………遅いんじゃない？  
だって、ギンギンに勃起してるし。  
キンタマも射精モードだし。  
なにより〜♥  
エンジン加速う〜♥♥♥

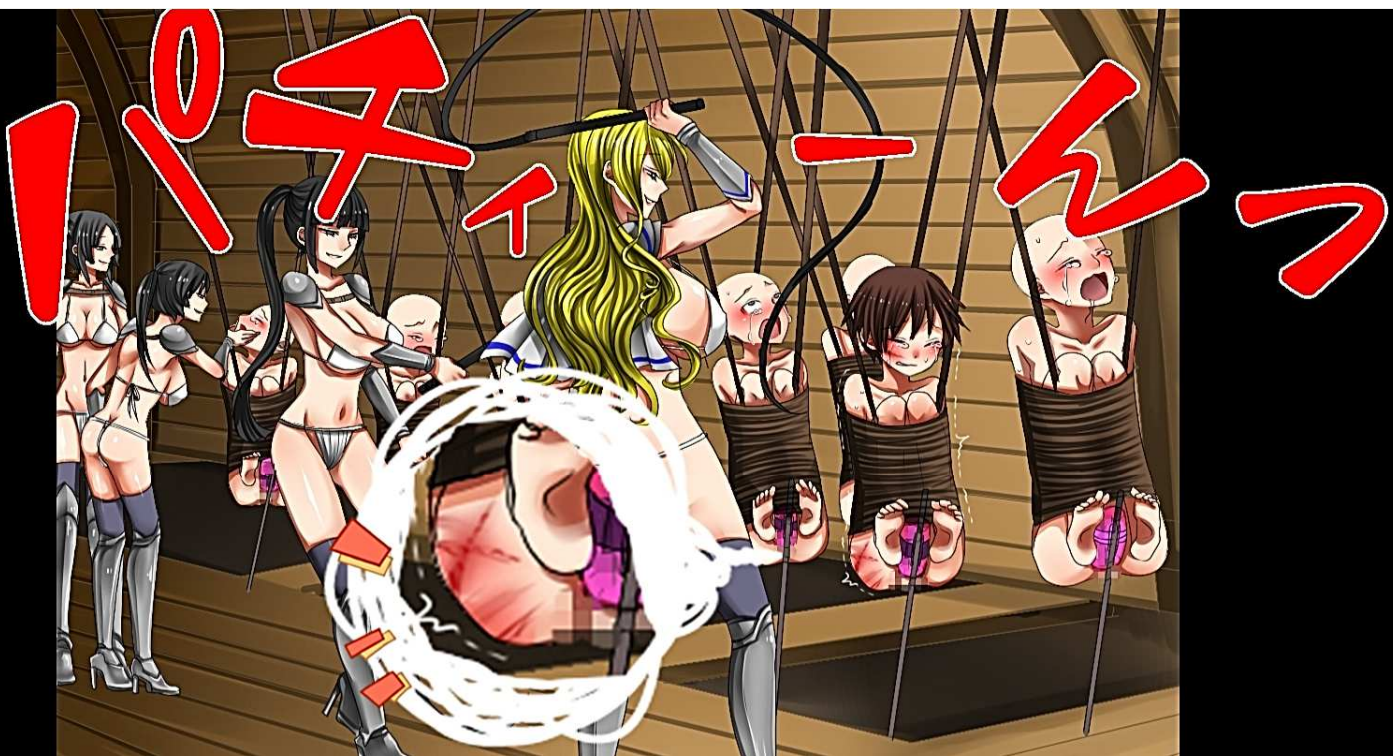
ほ〜ら、オチ○チンに縄を伝って、  
オナホがぐじゅぐじゅの振動が  
伝わってくるでしょ〜？  
我慢……………できるかな〜（笑）」







「お尻裂けちゃってるよ？  
頑張つて射精我慢すれば良かったね〜。  
でも、もう遅いよ♥♥♥  
真っ赤なお尻で敵の星に連行されようね〜」



「まあどつちにせよ、お尻は鞭打ちしようと思つてたんだ〜。  
だつて、お前が・・・。  
お前が、あの『トール』だろう？  
人類代表の交渉役で、敵である私達に、  
日本人男子の捧げた交渉係の『トール』。  
お前だけ髪の毛を残したのも  
簡単に見分けが付くやうになんだけ。  
お尻も真っ赤なら尚分かり易いし(笑)  
これから捕虜代表として、他のやつよりも  
精液搾り取つてやっからな。  
覚悟しておけよ(爆笑)」

自分が『トオル』だと他の捕虜にバレた。

トオルに他の捕虜の視線が突き刺さる。  
彼らがトオルを罵倒しないのは、捕虜故であろうか。

何にせよ宇宙船が星に着く頃には  
トオルのお尻はさらに腫れ上がっていた。

女性とはいえ敵の宇宙人も戦士。  
味方を売ったトオルが許せなかったのだろうか。  
それとも、ただ弄んだだけなのか。

しかも交渉のためにしばらく女とはご無沙汰なトオルにとって  
宇宙人の容姿、気持ち良過ぎるオナホに伝わる振動。  
射精を我慢できるはずなど無かった。

トオルは、泣いていた。  
泣きながら、一人射精し続けていた。



そして宇宙船は、  
惑星 『S00272288』  
に到着。

捕虜である男子は全て、  
禍々しい欲望を持つ看守がいる強制労働所に  
移送された。

移送される最中、  
捕虜全員の亀頭がピアッシングで穴を開けられ、  
拳半分ほどの大きさの鈴が取り付けられた。

この鈴から  
常時微細な電気信号が神経を通して送られ、  
勃起状態を維持。  
脳も性興奮状態を、強制的に維持させられた。



第三章

「ほら、さっさとしなさい。たった30キロ程度の石でしょ？クスクス、どうしたの？全裸だと力が入らないのかしら？そうよね。服着てる人と一緒にいると、自分の存在が小さく感じるでしょ。でもそれがアンタ達の元来あるべき姿よ。制圧されて…、挫けて…、屈服するの。立場をわきまえて、この世界のルールに従いなさい。アンタ達が頼れるのは私達だけ。ご飯を与えるのも与えないのも私達の自由。生きるも死ぬも主人である私達の気分一つ。これがルールよ」



「捕虜の分際でなにチンタラ働いてんのよ。元来、オマエラの面倒を見るだけでも…私達が口をきいてやるだけでも…畏れ多いことなのにつ！育ちが悪くて女性に対する教育をきちんとしてないの？私達が話す時はひざまづいて下から見上げるながら聞くものなのよ。ひざまづけない時は、膝を折って下から見上げるようにしなさいっ！！！！はあ。まったく。こんなことも知らないなんて。ホント、どおしよおいもないのね。情けないと自分で思わないの？」



「ああ、それから女性の半径1メートル以内に  
入ったら、土下座よ。  
顔を全部地べたに付けるのは当たり前。  
胸も膝も地べたにめり込ませるぐらいに  
ひれ伏しなさい。  
それが女性の近くにいる時の  
基本の姿勢だから、カラダで覚えなさい。  
別に私達はアンタ達が憎くて、こうしてる  
わけじゃないのよ。  
これがココでのルールってだけ。  
守れないオスは、拷問してからの死刑。  
拷問・クスクスは、嫌でしょう？」  
死刑問、絶対服従しか無いわね♥♥♥♥」



「おりゃああっ!  
さっさと運びなさいっ!!  
チンタラするなって教えてあげたばかり  
でしょ?  
ココには人権もなければ、尊厳もないの。  
アンタたちは道具でさえ無いわ。  
ただの肉棒よ。働く肉棒。  
精液を搾り取られながら…、  
こき使われ続けるただの肉棒。  
意志も希望もない。  
素直に受け入れた方が生存確率が高いわよ。  
せつかくだから、そのケツで理解しなさい。  
うおりゃああああっ!」